

航空機産業とプライベートジェットについて

【平野 章三の質問】 現在、神戸空港島の大きな更地面積を切り売りせずに置いておくことは非常に重要であるということが前提で、2点お聞きしたい

1) 航空機産業を誘致する可能性をまだ求めておられるのかどうか
2) もう1点、プライベートジェットについては公募も中々難しいですが是非とも再公募して欲しいのですが、この2点どうでしょうか？



【空港担当局長の答弁】 航空機関連産業ですが、世界の航空旅客需要の増加、ジェット旅客機の運航機数も大きく増加すると予測され、航空機の整備を担う MRO も世界の需要増加が見込まれると考えております。また、神戸市内には、航空機の製造を手がける大手企業も多数あり航空機産業が神戸の成長に寄与するように取り組んでまいりたい。プライベートジェットについても、現在誘致を進めていく方針に変わりなく関係事業者等へのヒアリングを継続的に進め、再公募に向けて引き続き検討を進めてまいりたい

【平野 章三の質問】 プライベートジェットについては、前回の公募のとき民間の要望に神戸市がもう少し譲る必要があったのではないかと、思うんですが！やはりヒアリングすることが大きいと思いますが！

【空港担当局長の答弁】 プライベートジェットについて現在誘致を進めていくという方針に変わりませんので、関係事業者等へのヒアリングを継続的に進め再公募に向け引き続き検討してまいります

医療産業とともにこれからの神戸市介護産業の取り組みは

【平野 章三の介護産業への取り組みについて】

神戸市は医療産業都市を標榜して25年経過しましたが、産業の創出では十分な成果が得られず、今後は産業化が大きな課題であります一方、介護分野は現在「介護テクノロジー導入促進プロジェクト」を推進していますが、昨年度体験会 & 交流会が開催され、実用性の高い介護ロボットやICT 機器・ソフトウェア、先進的な福祉用具の新たな事業化を推進することで、介護現場の人手不足や業務負担軽減などにつなげていくというプロジェクトを実施しました

そこでは一般社団法人日本ノーリフト協会が神戸市の委託を受け、130を超える関係団体と厚生労働省老健局長も参加され、介護施設

と機器メーカー双方のマッチングに向け非常に熱心なやり取りが行われました

さらにこの度【川崎重工さんが社長直属の介護組織を立ち上げ、本格参入される】ことになり、—— ロボット Nyokkey (ニョッキー) —— のブースでは【橋本社長自ら説明】されるほど熱の入りようで、ニョッキーが会話する時、顔の部分を家族や友人、看護師などに変えて入居者に話しかけるよう開発していくようです

そして、行動計測では屋内位置情報サービスも活用しており、これを契機に神戸市は今後の介護産業分野で大きく展開していくことになるでしょう！



ニョッキー
川崎重工(株)



シンガポールにおける新たな拠点設置について

【平野 章三の質問】 シンガポールでの拠点設置は非常に重要なプロジェクトと認識していますが、どの局が何人体制でどのような事業展開をされるのか、現地コンサルとの連携などを含めてお伺いします

【市長の答弁】 東南アジアにおける新たな拠点については、神戸空港の国際化を契機として経済的なつながりを一層深めることは重要であります

このため、新しい拠点は、産学官各分野で広くネットワーク構築を進めながら、市内企業、スタートアップの海外展開支援や、海外から神戸への投資誘引に努め、優秀な高度外国人材の獲得にも積極的に取り組みたい

その際、現地コンサルとの連携も視野に入れ、新拠点の実施体制を検討中であり、神戸と東南アジアをつなぐ経済面でのハブとなるよう進めたい

【平野 章三の質問】 シンガポールは世界最大級の国際ビジネスハブ港として地位を確立していますので、できれば経済観光局だけでなく港湾局も一緒に参加すべきであります

何故なら、港湾分野だけでなく空港関連もあり、神戸経済全体の発展に寄与することを考えると港湾局からの参加について如何でしょうか

ただ、ちょっと難点なのは、経済観光局と港湾局が仲悪いということを感じてますので、それが一番のネックかと思いますが、どうでしょうか？

【副市長の答弁】 シンガポール港は国際ハブ港ですので、大変重要でありますシンガポール港とは阪神国際港湾株式会社と共にリアルタイムな情報を入手できますので、港湾局の派遣が必ずしも必須でない感じもありますが、引き続きシンガポール港とのネットワークをより強固なものに努めてまいります



【平野 章三の質問】 == 港湾の関連のある精通した人 == から、経済観光局が支店を出すのであれば、港湾局が力のある事業部局ですので、バックアップも含めて一緒にやったらというアドバイスを実はいただいているんですよ！ ただ、港湾と仲悪ければ逆に無理かも分かりませんが、仲よくなったらまたお考えいただきたいと思います！

健康局長が実施に動き出したむし歯予防～小学校フッ化物洗口全校展開へ

【平野 章三の質問】 以前、歯科医師の先生方からむし歯予防効果としてフッ化物洗口の提案があり、一瞬驚き聞き直しました「むし歯の予防に効果がでると、歯科治療が減り診療にマイナスでは？」

【歯科医師の意見】 「これからは治療とともに定期健診で予防診療に重点を置く」と言われ……約1時間のレクチャーを受け、納得！

その後、平野は歯科医師会の先生方と保育園そして幼稚園と保護者に時間をかけ、ご理解頂きながらフッ化物洗口について進めてまいりました。次の段階として小学校のフッ化物洗口を要望されてきましたが、学校でのフッ化物洗口は働き方改革など教員の多忙化問題なども含め、教育委員会事務局の協力は頂けませんでした。ただ、健康局は小学校におけるフッ化物利用について、児童・保護者に重要性を理解してもらい、すべての児童に対し効果の高い洗口を実施していきたいとの考えでした。そこで『令和7年度からの全市（全校）展開』していくための具体的な実施方針の意見がまとまりました！

【その内容は】

- 小学校 160 校 週 1 回 早朝 2 時間にすると約 15 億円
- データによる【むし歯の多い重点小学校】60 校にすると約 7 億円と多額の予算が必要になり難しい状況！

そこで1学年だけにすると60校×(150～200万円)約1億2千万円他は洗口液を配布・小学校7万人×1700円1年分約1億2千万円以上のように健康局長の意気込みで全学校に取り組めるよう、非常に厳しい予算状況の中、上記の通り方針決定されましたので報告させていただきます！



市政報告 神戸市議員 平野 章三

神戸市市政報告 第21号
発行日：令和7年2月5日
発行所：神戸市会無所属 平野 章三
神戸市中央区加納町6丁目5-1
電話 (078) 322-6755

☆ 中学部活動から KOBÉ◆KATSU クラブへ

【平野 章三の質問】 教育長の英断！2026年9月コベカツ開始は本当に素晴らしい政策！何故か？ 学校部活動の現状について生徒数の減少、生徒側のニーズの多様化、教員の5割が競技の知識・経験なく、指導者不足などにより近い将来部活維持が困難になります。そこで、部活の移行期限を明確に区切って2年間で仕上げるという政策は、いろんな課題を対応しながら進めていく必要に迫られた結果、各関係者が一気に動き出すという効果ができました！当然、課題はいっぱいありますよ 地域移行の期限を先にきってまずねでも、こうしないと絶対動かないし、それで問題あるのは当たり前です。しかし、簡単な話でね。次々課題解決していったらいいんですよ！例えば、神戸市文化スポーツ局の外郭団体～神戸市スポーツ協会は各団体が非常に興味をもっており満席状態の中、教育委員会事務局が丁寧に説明と質問にも対応されていきました。2度目は少しずつグループを集めてもっと具体的なやり取りをされ、皆さん真剣でした。こういう形で、いろんな団体に協力を呼びかけ、その中から生徒が選択できるようにプラットフォームをつくり、クラブ内容がそれぞれ分かるように具体的にまとめていき、教育委員会事務局がアップしてくれるよう提案しました。

3. スケジュール

年度	2024年	2025年	2026年	2027年以降
中学校部活動	中学校部活動 (～2026年8月末)	中学校部活動 (～2026年8月末)	中学校部活動 (～2026年8月末)	中学校部活動 (～2026年8月末)
生徒・保護者への説明 情報発信	生徒・保護者への説明 情報発信	生徒・保護者への説明 情報発信	生徒・保護者への説明 情報発信	生徒・保護者への説明 情報発信
募集広報	募集広報	募集広報	募集広報	募集広報
活動団体募集	活動団体募集	活動団体募集	活動団体募集	活動団体募集
生徒の申し込み	生徒の申し込み	生徒の申し込み	生徒の申し込み	生徒の申し込み
先行実施	先行実施	先行実施	先行実施	先行実施
2026年9月～ KOBÉ◆KATSU 開始 (平日・休日)				

【参考】部活動と「KOBÉ◆KATSU」の違い

	部活動	「KOBÉ◆KATSU」
運営主体	学校	地域の様々な団体(登録制)
指導者	教員、部活動指導員	地域の指導者、希望する教員(兼職兼業)
参加者	当該校の生徒	生徒等(参加範囲を柔軟に設定)
活動場所	学校施設	学校施設、地域の諸施設
費用負担	部費(実費相当)	月会費等
保険	日本スポーツ振興センター-災害共済	スポーツ安全保険

★ところが議会では一部の議員が、例えば【教員の働き方改革のために生徒が犠牲になっている】など単純な批判ばかりを繰り返しているなどしているが、全体像を見つめて前向きに提案していくべきと思うが、残念であります。とにかく教育長の方針どうり生徒、教員、各団体が期限まで前向きに進んでいくことを期待したいと思います。

☆ 教育委員会事務局は、良き人財を活用するよう制度を見直すべき！

【平野 章三の質問】 よき人材を有効活用するには、予算なくても制度を見直せば効果が上がる 1例として、再任用制度があり、経験のある人材の活動をいかに見直すかが非常に重要だと思います。例えば校長を例示にとると、再任用校長制度が以前になくなってから優秀な校長がやる気を失ったのであります。ほとんど再任用の場合、決定権もなく時間を消化しながら過ごさせられるケースが多く、優秀な人材を生かしてきていない。なので、制度を少し変えただけでやる気が起きたり、その部署で力を発揮できるということも考えられます。その再任用校長制度を、名称を変えてでもプロジェクトなどのポジションを与えてあげることで、より大きな力を発揮すると思いますので、この際、見直す考えはないでしょうか

【教育委員会事務局 答弁】 再任用校長についても原則60歳で退職定年ということで管理職からは外れていただきますが【特例任用という制度】があり、余人をもって代えがたい場合は引き続き60歳を超えても管理職のポストにとどまり、校長等として活躍をいただくという制度がございます。今後【必要に応じて教育委員会におきましても検討してまいります】と考えております

【平野 章三の質問】 今の話は物すごく大事で、来年度から考えることになれば、やる気のある退職予定の校長先生は新たに実力を発揮できるチャンスが生まれ物すごく喜ばれると思うので真剣に考えていただきたいと思います！

【平野 章三の情報】 どうやら水面下の情報ですが、教育委員会は来年度より再任用校長制度復活するようです～ ヒットしそう！



☆ それから活動が見えない【統括官】のポジションを見直すべき！

【平野 章三の質問】 教育委員会の統括官ですが、現在8名の地区統括官を束ね学校支援の調整をされているとのことだが、教育現場からは実際、統括官が本当に調整役などされているとの声は聞こえてこないんですよ！！むしろ教育現場では、統括官が動いてくれたらいいのにな～という話が出るぐらいです。なので、名誉職というのが、役職の配慮がポストみたいなものならば人事を見直すことで、きっちり仕事をしてもらおう体制に、切り替えることを申しました

【平野 章三の情報】 多分、指摘が当たってますので人財が入れ替わるでしょう！



【平野 章三の質問】 これまでずっと「音楽のまち神戸」ということで実現を提案してきましたが、今、COMING KOBE はじめ、Battle de egg やまちなかパフォーマンスなど、様々な取組で音楽が神戸の魅力として根づき始めているというふうには私は思っています その、COMING KOBE が台湾・屏東県で行われる台湾祭という9万人が集まるライブと相互出演などの交流を既に始めている

ウエステ広場通路用 シェルター大改修 申し入れ実現へ!!

鳩の巣となるドーム型通路用シェルターの取り替えで糞害の解消もされる



く餌やり禁止条例制定の検討を申し入れました

【副市長の答弁】 ハトを含めて動物の餌やり行為に対して、動物愛護法の25条では指導・助言し、さらには勧告・命令をすることができると規定しており、パトロールを強化しハトの餌やりされている方へ丁寧に粘り強く指導を重ねていくことで改善を図っていきたい ☆ 結果、5年度1,210万円のふん対策パトロール予算が計上されました！ しかしながら、通路用ドーム型シェルターが老朽化により色あせ、見栄えの悪さが目立つ上、屋根のドーム内側は鳩の巣になっており、糞による汚れがひどく、通行人への糞害まで影響しております ◇ そこでシェルターの大改修を申し入れ、当面の間は鳩よけネットの設置による改善をしてきました ☆ その後、早速《シェルターを大改修します》と、神戸市の大英断の回答を得たのであります!! そこで

【平野 章三】 が本会議で質問 ◇このたび国費を獲得された上、バスシェルターを全面改修すると聞きましたが、着実に進めることができるのか伺います！
【副市長の答弁】 《バスシェルターの改修》については建設から20年以上経過し塗装の劣化等により美観が損なわれているので、駅西側広場の「リニューアルの一環として行う」予定で、施工条件を精査した上、鳩の糞対策にも工夫して取組んでまいりますとのことでした ☆そしてこの度、R7年度に設計そして工事が着工されることになりましたので、やっとウエステ広場が様変わりしていきます！

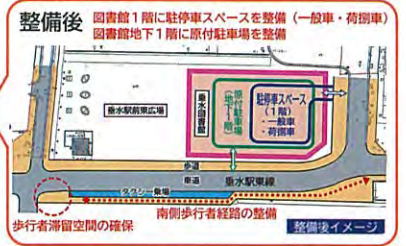


垂水駅西バスターミナル上屋

垂水駅東出口レバンテ広場に垂水図書館、地下に原付駐車場新設

JR垂水駅東口北側交差点南東部の信号待ち滞留場所にやっと改善出来る

現在整備中のレバンテ広場に新垂水図書館が2025年9月中に開館する予定ですが、同時にJR垂水駅東口交差点の南東部は滞留空間が…②が狭く、帰宅時は大混雑の日々が続いております そこで…信号待ちの空間を広げ、交通量の多い歩行者の安全性を確保するとともに、垂水駅東線にある原付駐車場を新しく建設する新垂水図書館の地下1階に移設し、原付駐車場のスペース分を使って道路を北側に移すことで南側にも線路沿いに新たな歩道(幅員2m…①)を整備します。工期は2024年(令和6年)9月2日～2026年(令和8年)3月31日の予定で進められております



期限を区切り部活動の社会移行を決断

教育長の英断で大きく動きだす 運営団体の一次募集に600以上応募があり企業・大学にも声がけ始まる

【平野 章三の質問】 部活動の社会移行に、KOBOKATSUはいずれ近い将来、部活維持が困難になることを思えば、2026年9月に移行する、と期限を2年間に区切り仕上げるという教育長の英断は、以前委員会で申し上げた通り、実に素晴らしい政策であります。そのことで、様々な課題に対応しながら進めていく必要に迫られた結果、各関係者が一気に動き出し、評価できる良い効果も次々展開され始めました一方、多くの課題は当然ありますが、その都度解決していけば良いことであります。部活動の社会移行への必要性は議員各位もほとんど理解されており、中には全体像を見つめることもなく、未だ批判的な意見ばかりを繰り返す前向きな具体的提案も行わない議員がいることは極めて残念であります

★ところがその反対する議員の所属会派が既に令和4年度神戸市予算要望で「部活動の地域移行は神戸市が他都市に先駆けて行い、こどものスポーツ参加の機会確保、拡大に資するシステムを構築すること」と申し入れているのですよー このような議員さん →果たして ― 信念を持った政治家か??? ― 甚だ疑問に感じるのであります ～ ところで、運営団体の募集を始められ600以上の応募があるとのことですが、特に大手企業の応募が弱いのではないのでしょうか! そこで、メジャーなスポーツなどの技術や技能向上、大会やコンクールの出場を目指す目的の生徒への対応が大きな課題であると感じております 神戸市には、メジャースポーツや文化面などのクラブチームを持つ大手企業が多く、社内にはこどもたちの指導に関心を持っている社員もいると聞いておりますので、この際、各大手企業のクラブチームに下部組織を設けていただき、KOBOKATSUの活動団体として参画してもらうことを提案したいと考えています。例えば、企業同士が連携すれば、下部組織のチーム間での対抗試合や大会開催も可能になり、部活では体験できなかった高いレベルの活動環境や、将来プロの発掘に繋がる人材育成が期待できます。これらはKOBOKATSUの魅力となるだけでなく、企業にとっても社会貢献活動として知名度の向上にも繋がり、双方のメリットになると考えますが大手企業への積極的なアプローチについて、教育長のご見解をお伺いいたします

【教育長の答弁】 KOBOKATSUは、大会への出場や技術・技能の向上を目指す活動から、趣味と一緒に楽しむような活動まで、多様な活動を広げていきたいと考えております。その中で、ご指摘がありましたが高いレベルの活動を求める生徒の受け皿として、市内の大手企業に参画いただくことができれば、さらに生徒の選択肢が拡大するのではないかと考えております。



第1次募集の結果を見ますと、少数ではありますが、社会貢献活動として、例えば自社のグラウンドを利用する前提で応募いただいているような地元の大手企業もありますまた、サッカーなどは、レベルの高い民間クラブチーム、既に活動している民間クラブチームですが、そのような活動の中の、いわば下部組織的なクラブとして、低廉な価格で、KOBOKATSUに参画いただいている例も出てきております。今後の取り組みなのですが、活動団体の募集は、今までもご答申申し上げてまいりましたが複数回に亘って行いたいと考えております。その中で、やはりより専門的な指導が可能なクラブもできるだけ多く参画いただきたいと考えておりますので、ある程度の規模の企業であれば、会社としてサッカーや野球などの社会人チームやクラブを持っていることも多く活動団体の掘り起こしに取り組んでいく中で、市内の大手企業への積極的な働きかけについても、検討していきたい、そのように思います

【平野 章三の再質問】 今、教育長が積極的に大手企業に働きかけていきたいというお話、これは非常に重要です。ただ、教育委員会は大手企業との付き合いがそうあるわけじゃない～今、このKOBOKATSUについては、市長はすごく前向きに動いておられるというのを感じているのですが、ただ市長部局は、教育委員会とは全く関係ないという感じで思っておられる局長さん方がほとんどだと思うんですね。しかし、この問題は、経済観光局長さん、それから企画調整局長さんのお二人が、もっと企業にKOBOKATSUに協力をしてもらえるというようなことがあれば、教育委員会がお願いをしたときに受けて頂けないかと思うんですが、その考え方にいずれかの方が答えてくれませんか!

【経済観光局長の答弁】 ご指摘の件、企業にもスポーツをされている方もたくさんおられますので経済観光局では、普段から企業との付き合いもあり、そういった形で我々の方でも働きかけしていきたいと思っております ☆ 今後の予算特別委員会でも経済観光局長は「大手企業だけでなく、中小企業などにも声がけていく」との積極姿勢を示され、力強い支援の答弁でした! ☆さらに、KOBOKATSUについて【各大学への働きかけを企画調整局にも】お願いしたところ、早速動き出してくれました 【平野 章三の意見】 教育長からの働きかけに神戸市の各局も全面的に協力することにより【多くの企業・大学がKOBOKATSUに参加】してくれば、生徒の期待に大きく応えられることになるでしょう!!

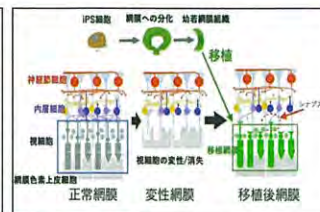
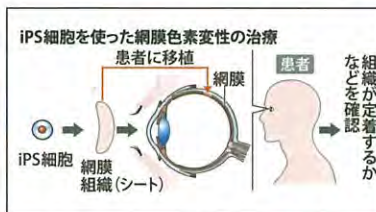




【平野 章三の質問】 元理研のプロジェクトリーダーである高橋政代先生は、眼科領域における**再生医療の実用化**を目指し、市内でベンチャー企業を立ち上げており、この度**再生医療分野**で国内トップ企業と資本業務提携を締結し、**iPS細胞を用いた網膜変性疾患の治療薬**の製造販売承認を目指し、**億円単位の規模**で支援を受けるとのことです。また、**昨年12月**からクラウドファンディングを行うなど、独自で資金確保に努力されてきました。**iPS細胞を用いた再生医療**は世界に通用し得る技術であり、**神戸市**は最前線で支援すべきであるため、万博でも積極的に情報発信するものと考えておりましたが、市独自の出版はなく、反対に大阪のバビリオンで**iPS細胞を用いた再生医療技術**が展示予定であり、そのアドバイザーとして高橋先生が就任している状況には非常な驚きでありました。**神戸**の医療技術を世界に発信する絶好の機会に、**神戸**の顔が見えないような消極的な対応を聞くと、**神戸の再生医療**を産業化させていく姿勢に大いに疑問を感じるのであります



移植手術の様子
(神戸アイセンター病院 提供)



高橋先生の**iPS細胞の研究**は、**神戸**の革新的技術の実用化、産業化に貢献する最も有力の研究分野の一つであり、いち早く再生医療の研究開発の支援に取り組んできた**神戸市**のはずだったので、今後はより積極的かつ重点的に産業化に向けたサポートを実施すべきと考えらるご見解をお伺いします

【神戸市長の答弁】 高橋政代先生が長年に取り組んでこられた**iPS細胞を用いた網膜再生治療**は大変意義ある取り組みであり、**神戸医療産業都市**を代表するプロジェクトだと認識しております。このプロジェクトが、大阪・関西万博で、今【平野章三先生からご指摘】があったような形で関わるようになったことは、今日ご質問頂き初めて承知いたしました。大阪・関西万博出展には**神戸市**として、完全に把握をしているわけではありませんが、今後とも、この大阪・関西万博における様々な**神戸**のプロジェクトの情報発信については、ご指摘を踏まえ、情報収集も行い更なる取り組みができれば、検討させていただきたいと存じます。高橋先生の取り組みを含め、**神戸医療産業都市**で展開しているプロジェクトは産業化も含め情報発信が十分ではないことは、反省しなければいけないと考えております。今回のご指摘も踏まえ、今後神戸空港が国際化しますと、**神戸医療産業都市**が海外で同様に取り組んでいる地域と直接繋がる可能性も出てきますので、情報発信や広報宣伝、さらに連携の強化としっかりと力を入れていきたいと思っております

【平野 章三の再質問】 高橋先生の眼科領域における**再生医療の実用化**に向けた支援を申し入れたが、以前**副市長**は神戸アイセンター病院を建設したことで協力しているとの答弁でした。なので、研究・事業化への支援は実質的にはなく、**市**の対応

には違和感を感じていました。**神戸市**では**医療産業都市機構**の五つの研究チームに長年多額の研究費支援を行ってきているのに、未だ産業化は見えてこないうえ、そこに高橋先生の研究は入っていないのです

——これは何故かな？というふうな感じがしたのですが——

どうも**医療産業都市機構**の中で**再生医療分野**との【確執がある】ようです。今、新理事長の成宮先生が産業化に理解を示してくださっていますので確執があれば、**市長**も“**神戸医療産業都市**を代表するプロジェクトと認識している”とのことから**医療産業**に組み入れ改善していくべきです。そうすると、いろんな資金支援もできる上、**神戸医療産業都市**の中の産業化が実現していく可能性が出てくるということになりますが、そのような考え方はありませんか？

【副市長の答弁】 高橋先生の成果は、**神戸医療産業都市**の革新的な成果であり、できる限りの支援を行って参ります。ご指摘の**神戸医療産業都市推進機構**の中に高橋先生が入っていないということですが、高橋先生は自分で会社を興して、その中で実用化を目指したいという先生の強いご意向の中でされておられますが、私も直接お話をしながらも支援を続けてまいりたいと考えています

【平野 章三の質問】 いや、かなり違う!! 確かに言いにくいと思いますが眼科領域での**再生医療**を**機構**は認めてないのでしょうか。ただ、今後、成宮先生が前向きに動いていただく中で、**医療産業都市機構**の中へ位置付けて頂き、産業化へと進めて頂きたいが如何ですか！

【副市長の答弁】 高橋先生に関する研究はこれからも積極的に最大限の支援をまいりたいと考えているところです

【平野 章三の意見】 結局、**医療産業都市機構**が眼科領域での**再生医療**を認めず実質支援できなかったことは、そこに確執があったことで、そうせざるを得なかったということでしょう。今後は**神戸医療産業都市推進機構**において**市**が重点的に事業化・産業化に向けて、支援する分野を外外部評価に基づいて支援の内容を見極めるといった研究支援スキームを構築していくべきでしょう！

2025年震災30年の節目でありCOMING・KOBЕとして感謝を震災の記憶を風化させずに語り継ぐことを目的とし神戸市も対外的発信を

【平野 章三の質問】 音楽のまち**神戸**について伺います 阪神・淡路大震災の復興支援に対する被災地からの感謝と震災の記憶を風化させずに語り継ぐことを目的として、**神戸市**も支援している唯一**チャリティー音楽イベント**として **COMING KOBЕ** が毎年開催され、多くの方が来場し、イベントを通じて集まった募金は各地の被災地に届けられています。そこで、来年は**震災 30 年**という節目を迎えるため、来年度の **COMING KOBЕ** については震災を通じていただいた多くの支援に対し、**感謝の気持ちを対外的に大きく発信していく**ためにも**神戸**も積極的に関わっていくべきと考えますが、どのように取り組もうとされているのか、お伺いします

【副市長の答弁】 **COMING KOBЕ** につきましては、阪神・淡路大震災の復興支援に対する恩返しとして、震災を風化させず、語り継ぐことを大きな目的とされ、**2005 年**から開催されて、今年で **20 回目**を迎えたところでございます。例年多くのアーティスト

が集結し、**20 代**を中心に**全国から若者が来場する日本最大級の無料のチャリティー音楽フェスティバル**でありまして、全国に**神戸**の名を発信するいい機会となっていると考えているところでございます。会場内に設置されます減災ヴィレッジでは、被災地支援や震災について考えるきっかけとなるよう、**語り継ぎをするようなステージやブースも出展**されてきたところでございます。これまで、会場や規模などを変え

ながら様々なやり方で開催されてきたところでございますが、**神戸市**といたしまして、例えば会場の提供、開催経費の補助など、様々な形で継続的に支援を実施してきたところでございます。**COMING KOBЕ 実行委員会**からは、**震災から 30 年**を迎える来年につきましては、当事業のさらなる盛り上げを目指して出演アーティストの充実を図りたいとお聞きしているところでございます。**神戸市**といたしまして、**震災**を通じていただいた多くの支援に対する感謝の気持ちを大きく発信していくため、**神戸まつり**と連携することで**防災啓発の取組や広報面での協力を図ることができると**と考えておられ、積極的に検討を進めているところでございます。具体的な内容につきましては、**COMING KOBЕ** や**神戸まつり**の実行委員会と協議を進めていきたいと考えているところでございます。いずれにいたしましても、御指摘いただきましたこととあり、**COMING KOBЕ** のみならず、音楽を通して**神戸の魅力**や震災時の感謝の気持ちの発信に**官民連携**で積極的に取り組んでいきたいと考えているところでございます

【平野 章三の質問】 これまでずっと「**音楽のまち神戸**」ということで実現を提案してきましたが、今、**COMING KOBЕ**はじめ、**Battle de egg**や、まちなかパフォーマンスなど、様々な取組で音楽が**神戸の魅力**として根づき始めているというふうには私は思っています。**COMING KOBЕ**が台湾・屏東県で行われる台湾祭という**9万人が集まるライブ**と相互出演などの交流を既に始めているのです。そこで、他国の音楽イベントと連携することで**神戸の音楽文化**を海外に発信しているという状況なのです。例えば、

今後このような取組を**神戸市**も積極的に継続支援していくことが音楽文化の都市間交流、さらには**神戸の魅力発信**に必要と考えますが如何でしょうか

【副市長の答弁】 ご指摘いただきましたこととあり、「**音楽のまち神戸**」をどのように発信していくかという観点で、これまで例えば**昨年100周年**を迎えました**神戸ジャズ**の発信でありますとか、**KOBЕまちなかパフォーマンス事業**等に取り組んできたところでございますし、**Battle de egg**などもそのような取組の中で**神戸**が音楽のまちとして発信したところでございます。そうした中で、**国際的な交流・発信**という観点で、屏東県の台湾祭の関係について**COMING KOBЕ**との交流ですが、ご紹介いただきましたこととあり**3日間で9万人を動員**するという大規模なイベントでございますのでこのような**音楽祭**を通じて交流人口を増加させていくことは経済効果だけでなく、将来的に**神戸市**を「**音楽のまち**」として広く発信していくことにもつながるかと考えておりますので、どのような支援ができるか、検討を進めていきたいと考えております。また、来年、4年に1度の国際フルートコンクールの時期でございますのでこの開催に合わせて**震災30年関連事業として音楽祭を開催**する予定でございますが、チャーター便が就航する韓国につきましてはフルート人口が多く、フルートコンクールの応募者も多いことから、韓国との音楽、フルートコンクールを通じた交流という分についても誘客にもつながっていくものと期待しているものでございます。このように、**音楽を通して観光振興**などにつながるように、国際的な視点も持ちながら幅広い視点で施策を検討していきたいと考えております

【平野 章三の質問】 今、**COMING KOBЕ** が **9 万人の台湾祭との交流**をやっているという現実！このことで日本と台湾のエアラインの前向きな進め方とか、総合的に考えていく必要があると思うのです。これ、今、継続したいということとて言っていますので、これを機会にいろんな経済やリソースとしての観光などを含めて継続的な支援をしていこうという考え方はありますか？

【副市長の答弁】 **COMING KOBЕ** を継続的に支援していくという分につきましては当然必要だと考えており、その中で、**COMING KOBЕ** が屏東市、台湾祭との交流も続けるということでございますので、間接的にも含めて継続的にサポートになっていくと考えております！



音楽を通して観光振興などにつなげるように国際的な視点も持ちながら幅広い視点で施策を検討していきたい



日本と台湾のエアラインの前向きな進め方とか総合的に考えていかなければいけない



日本と台湾のエアラインの前向きな進め方とか総合的に考えていかなければいけない



日本と台湾のエアラインの前向きな進め方とか総合的に考えていかなければいけない